

P

〔目標〕

- ・学習到達目標を単元に位置付けた指導を通して、児童の思考力、判断力、表現力等の伸長を図る。

D

〔単元の目標の達成に向けた手立て〕

	手立て	資料
①	単元にCAN-DOリスト形式の学習到達目標を位置付ける。	
②	「Can-Do評価尺度」を用いゴールを明確にし、学習への見通しを持たせながら言語活動を中心とした指導と評価を進める。	
③	効果がどれくらい表れているか、児童アンケートのデータを用いて検証する。	ア

C

〔単元の目標の達成状況〕

- ・1年生の授業実践の事前、事後において、授業改善に係る生徒アンケートの質問項目6点のうち、4項目について、平均点の上昇が見られた。

A

〔改善の方向性〕

- ・単元における「内容のまとめり」を意識した指導
- ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況等の設定
- ・教師と生徒の間での学習到達目標の共有の工夫（一方的に提示するだけにとどまらない）

## 単元の目標の達成に向けた手立ての具体

①単元にCAN-DOリスト形式の学習到達目標を位置付ける。

### 〔児童（生徒）の活動〕

○文法や英文読解の学習が単元末の言語活動と密接な関係があることを踏まえ、ゴールへの見通しを持って学習を進める。

○自分が言語活動において目指したいコミュニケーションの内容と方法について、CAN-DOリストに基づき自身の学習到達目標を設定し、目標の達成を目指して単元の学習を進める。

### 〔教師の指導〕

○単元終末における「目指す生徒の姿」のイメージを明確にし、単元の学習計画をバックワードでデザインする。学習計画を生徒と共有しながら指導と評価を一体的に進め、授業改善を図る。

○「Can-Do評価尺度」を活用し、毎時間の終末に学習到達目標に対して自身がどこまで到達したかについて振り返らせる。学習到達目標の達成までに、自分が必要な学習について考えさせ、学習に対し自己調整を図りながら粘り強く取り組むように促す。

### 〔工夫点〕

生徒に「学習計画表」を持たせ、それぞれの学習内容と学習到達目標の関係を視覚化し、主体的に学ぶ姿勢を育てる。

○単元末だけの言語活動にとどまらず、毎回の授業においても、目的、場面、状況を伴った言語活動を通じた指導を心掛け、コミュニケーションに臨む実践力を伸長する。

## 手立て①

生徒の活動	教師の指導	工夫点
<p>文法や英文読解の学習が単元末の言語活動と密接な関係があることを踏まえ、ゴールへの見通しを持って学習を進める。</p>	<p>単元終末における「目指す生徒の姿」のイメージを明確にし、単元の学習計画をバックワードでデザインする。学習計画を生徒と共有しながら指導と評価を一体的に進め、授業改善を図る。</p>	<p>生徒に「学習計画表」を持たせ、それぞれの学習内容と学習到達目標の関係を視覚化し、主体的に学ぶ姿勢を育てる。</p>

ゴールへの見通し（学習計画表・CAN-DOリスト  
形式の学習到達目標の単元への位置づけ）

## PROGRAM7 振り返りシート

1年 組 番名前

〈ゴール〉①自分のまちの地図を見て、はじめて見るお店の存在を相手に伝えることができる。  
②交通手段を書くことができる。

〈単元末の活動〉 ①苫小牧市のgoogle mapを見ながらペアにはじめて見るお店の存在を伝える。  
②ペアに親戚の家にもどのように行くかについて聞き取り、文章にまとめてみる。

### 到達段階

A	交通手段を書くことができる。また、はじめてみるお店の存在を伝えたいので、お店について情報を付け加えることができる。
B	例や教科書などを参考に、一人で自信をもって、はじめてみるお店の存在を伝えたり、交通手段を書くことができる。
C	友達や先生に教えてもらいながら、はじめてみるお店の存在を伝えたり、交通手段を書くことができる。
D	はじめてみるお店の存在を伝えたり、交通手段を書くことはまだ難しい。

時	【ゴールに向けての】 今日の目標	ABCD	【ゴールに向けての】今日の振り返り（できたこと、気づいたこと、疑問、次回に向けてやっておくこと）
---	---------------------	------	--

## 手立て②

生徒の活動	教師の指導	工夫点
<p>自分が言語活動において目指したいコミュニケーションの内容と方法について、<b>CAN-DO</b>リストに基づき自身の学習到達目標を設定し、目標の達成を目指して単元の学習を進める。</p>	<p>「<b>Can-Do</b>評価尺度」を活用し、毎時間の終末に学習到達目標に対して自身がどこまで到達したかについて振り返らせる。学習到達目標の達成までに、自分が必要な学習について考えさせ、学習に対し自己調整を図りながら粘り強く取り組むように促す。</p>	<p>単元末だけの言語活動にとどまらず、毎回の授業においても、目的、場面、状況を伴った言語活動を通じた指導を心掛け、コミュニケーションに臨む実践力を伸長する。</p>

## Can-Do評価尺度の活用（見通し・振り返り・自己調整）

### 到達段階

A

交通手段を書くことができる。また、はじめてみるお店の存在を伝えただけで、お店について情報を付け加えることができる。

B

例や教科書などを参考に、一人で自信をもって、はじめてみるお店の存在を伝えたり、交通手段を書くことができる。

C

友達や先生に教えてもらいながら、はじめてみるお店の存在を伝えたり、交通手段を書くことができる。

D

はじめてみるお店の存在を伝えたり、交通手段を書くことはまだ難しい。

## Can-Do評価尺度の活用（見通し・振り返り・自己調整）

時	【ゴールに向けての】 今日の目標	ABCD	【ゴールに向けての】今日の振り返り（できたこと、気づいたこと、疑問、次回に向けてやっておくこと）
1	人やものの存在について言えるようになろう。		
2	どのようにするのかたずねたり答えたりできるようになろう。		
3	本文の読みを通して、人や物の存在について言うときの英語の使い方を覚えよう。		
4	本文の読みを通して、どのようにするのか聞いたり答えたりするときの英語の使い方を覚えよう。		
5	人や物の存在をいうときや手段・方法をたずねるときの語順をたしかめよう。		
6	地図を見てはじめて見るお店の存在を伝えたり、交通手段を書いたりしよう。		

## 生徒アンケートの項目

	児童への質問項目	授業改善への課題
設問①	英語の授業では、単元のゴールへの見通しを持っている。	言語活動の設定と共有
設問②	目的や場面に合わせて話す内容や構成を考えている。	言語活動を通じた指導
設問③	どのような英語を使うか自分で考えている。	
設問④	どのように英語を話せばいいか考えて工夫して話している。	
設問⑤	相手や周りの人に英語で自分の気持ちや考えを伝えようと努力している。	言語活動における評価方法や場面の共有
設問⑥	先生も自分もどこまで達成するか理解している。	

※「とてもあてはまる（5）」から「全くあてはまらない（1）」までの5件法にて調査を実施

阿部・根岸（2022）「Can-Doリストを活用した授業改善の試み」より引用



資料 CAN-DO実践前と実践後の生徒アンケートの比較（中1 9月／12月）

中学1年生 $n=59$ （9月 実践前）						
	設問①	設問②	設問③	設問④	設問⑤	設問⑥
平均	3.70	3.72	3.80	3.44	3.90	3.69
標準偏差	1.00	1.03	0.86	1.00	0.94	1.02

中学1年生 $n=59$ （12月 2単元実施後）						
	設問①	設問②	設問③	設問④	設問⑤	設問⑥
平均	3.81	3.86	3.90	3.64	3.85	3.63
標準偏差	1.07	0.96	1.00	0.92	0.97	1.12

平均の差	0.11	0.14	0.10	0.20	$\triangle 0.05$	$\triangle 0.03$
------	------	------	------	------	------------------	------------------

## 成果

- ◆ 生徒に「学習計画表」を持たせ、それぞれの学習内容と学習到達目標の関係を視覚化したことで・・・
  - 単元のゴールへ見通しをもって学習に取り組むことができた。  
(生徒の振り返りの様子、アンケート設問①の結果より)
  
- ◆ コミュニケーションを行う目的や場面、状況を伴った言語活動を通じた指導を心掛けたことで・・・
  - 目的や場面に合わせて表現する表現内容や構成を考えながら活動に取り組むことができた。(生徒のパフォーマンスの様子、アンケート②、③の結果より)

## 課題①（単元における「内容のまとめり」を意識した指導）について

- ◆ 単元の指導と評価で重視する領域が絞り切れていない
  - 「内容のまとめり」を意識した指導内容の計画を図る。
  - 単元の指導を通して「どの領域の、どんな資質・能力を高めるのか」ということを明確にしながら指導と評価を展開する。
  - 指導と評価のより一層の一体化を図る。

## 課題②（コミュニケーションを行う目的や場面、状況等の設定）について

- ◆ 言語活動を通じた指導において、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等の設定が不明瞭である。
- コミュニケーションが「必然性」「目的意識」「相手意識」を持ったものとなるように、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等の設定を明確にする。
- 言語活動を通して、生徒がコミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて思考力、判断力、表現力等を働かせられるように促す。
- 指導と評価のより一層の一体化を図る。

### 課題③（教師と生徒の間での学習到達目標の共有の工夫）について

- ◆ 教師と生徒との間での学習到達目標の共有が十分なされていない。
- 学習到達目標を共有する際は、教師から一方的に提示するだけではなく、例えば相手とコミュニケーションを図るには、どのような表現内容や表現方法が求められるのかなどについて、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて考えさせるなどの場を設定する。
- 共有した学習指導目標の達成に対し、学習の振り返りの際に「できるようになってきたこと」「できるようになりたいこと」「達成に向けての勉強方法」などを意識させながら、生徒に学習の個性化を促す。
- 生徒の振り返りから得たフィードバックを自身の指導の個別化に生かし、指導と評価の更なる一体化を図る。